

館山に若者呼び込め

恋人聖地PRやSNS発信

北条海岸でキャンストア運営の

立教大生らが奮闘

館山をアピールしたい」ながら8月28日まで1か月間、交代で店を運営している。

キャンストアは、広

告の学びを実践する場として、学生だけで運営する海の家。かつては盛んだったが、各地で姿を消す中、昭和29年に始まった立教大のキャンストアは館山の地で63回の歴史を刻む「老舗」だ。

今年も7月28日に始まり、3年生を中心とした80人が、近くに住み込み連動した取り組み。割引

サービスをする協力店舗に加わり、館山夕日棧橋など聖地スポットを訪れたカップルに、焼きそば、ビール（各600円）をそれぞれ200円割引している。

また、同じく聖地スポットの洲崎灯台用に地元グループが製作した縁結び絵馬（500円）を販売。ストア内にも絵馬かけ台を設置し、若者カップルの呼び込みに協力している。

立教大ミス・ミスターコンテスト候補者を招いたイベントは今月21日に計画。候補者の男女10人に実際に恋人の聖地スポットを巡ってもらい、ツイッターなどSNSで発信してもらおうという試み。フォロワー数が数千人の発信力のあるメンバーもあり、若者への館山の認知度アップを狙う。

キャンストア店長で社会学部3年の安田航大さん(21)は「若者をターゲットにしたプロジェクトで館山に少しでも協力できないかと考えた。素晴らしい海に夕日。館山の良さは都会の若者に知られてない。僕たちがアピールして呼び込むことができる」と意気込む。

一方、「地元の人が入りにくいのが課題だった」と今年は地元向けに割引クーポン（生ビール200円引き、かき氷100円引き）もつくり、地域に愛される店づくりにも力を入れる。安田店長は「ぜひ地域の方々にもらってほしい」と呼び掛けている。

恋人の聖地スポット洲崎灯台で絵馬販売館山の市民グループ

館山市洲崎地区の活性化

化に取り組む「洲崎マーガレット岬の会」（本間信也代表）が1日から、恋人の聖地活用の取り組みの一環として絵馬の販売を始めた。

花いっぱい洲崎灯台を目指して、花の植栽などに取り組む若者中心のグループ。洲崎灯台が恋人の聖地スポットのひとつとなったのを受け、洲崎に足を運んでもらうきっかけになればと企画した。

絵馬は「願いがかなう、マーガレット岬絵馬」として、灯台下の「森田屋商店」で500円（税込）で販売。絵馬をかける場所は、灯台の眺望デッキに用意した。夏場は、北条海岸の立教大学キャンストアでも販売している。

本間代表は「マーガレットの花言葉は『真実の愛』。洲崎神社は源頼朝が源氏再興や妻の北条政子の安産を祈願したとされるパワースポットで、願いを込めるには格好のスポット。洲崎の地に色んな願いを託してもらえれば」と話している。

館山市北条海岸にキャン

ストアを開設する立教大学広告研究会の学生がこの夏、館山に若者を呼び込もうとさまざまな取り組みを仕掛けていく。恋人の聖地のPRに向け、割引サービスをしたり、新たに売り出された縁結び絵馬を販売したりするほか、立教大ミス・ミスターコンテスト参加者を招いたSNSによる情報発信を企画。学生らは「若者をターゲットに



北条海岸沿いに開設されたキャンストア



販売されているマーガレット岬絵馬